

令和5年度農林水産関係予算概算要求の概要

農林水産省は、農林水産業・地域の活力創造プラン等に基づき、食料安全保障の確立と農林水産業の持続可能な成長を推進するため令和5年度農林水産関係として、総額2兆6,808億円を予算概算要求しました。以下の9項目を柱とし、農政の推進を図って参ります。

【総額 2兆6,808億円（対前年度比117.7%）】

1 生産基盤の強化と経営所得安定対策の着実な実施、需要拡大の推進

- ◆ 農業の持続性の確保に向けた生産基盤の強化
- ◆ 畜産・酪農の生産基盤の強化
- ◆ 経営安定対策の着実な実施
- ◆ 国民の理解醸成と需要拡大の推進

2 2030年輸出5兆円目標の実現に向けた農林水産物・食品の輸出力強化、食品産業の強化

- ◆ 2030年輸出5兆円目標の実現に向けた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の実施
- ◆ 知的財産の流出防止、侵害対策
- ◆ 新事業の創出と食品産業の競争力強化

3 環境負荷低減に資する「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた政策の推進

4 スマート農林水産業、eMAFF等によるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

- ◆ スマート農林水産業の推進
- ◆ 農林水産・食品分野におけるスタートアップ創出の強化

5 食の安全と消費者の信頼確保

6 農地の効率的な利用と人の確保・育成、農業農村整備

- ◆ 農地中間管理機構による集積・集約化と多様な経営体による農地利用
- ◆ 多様な人材の確保・育成
- ◆ 競争力強化・国土強靱化のための農業農村整備の計画的な推進

7 農山漁村の活性化

- ◆ デジタル技術により地域資源を活用した農山漁村の課題解決
- ◆ 日本型直接支払の実施
- ◆ 中山間地域の活性化

8 カーボンニュートラル実現に向けた森林・林業・木材産業によるグリーン成長

9 水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化



※詳しくは、農林水産省ホームページのこちらのアドレスからご覧下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r5yokyu.html>

日本3大植木生産地の一つ川口市安行で、緑化で使用する植物の育成・販売と卸売を行っている(有)グリーン・シシクラ専務の矢倉聡一さんをご紹介します。

(有)グリーン・シシクラは、全国から苗木を購入して庭木等向けに育成・販売する会社として、平成7年に矢倉聡一さんの父(現代表)が始めました。

現在は、専務の聡一さんが経営の中心となって父と従業員7名で、さいたま市の見沼区と岩槻区にある合せて2haの畑で、200～300種類の樹木を仮植し、主に高さ5～10mの植木にまで育成して造園業者に販売するほか、全国から購入した植木の卸売も行っています。

樹木は、同社が加盟している(一社)日本植木協会及び聡一さんが会長を務めている川口安行造園会(以下「造園会」という。)の生産者などから購入しています。

また、同社では畑で仮植・育成している植木も含めて取扱品種数が約4000種類以上あり、取扱品種数の多さは同社が加盟している2つの団体を合わせた加盟約440社の中でもトップクラスの取扱品種数です。ここまで多くの品種を取り扱えるようになったのは、これまでに全国から購入した樹木や植木の形容、植栽適地などの情報をデータベース化して顧客からの要望に活用していることや、聡一さんが約11年間稼業を手伝いながら造園会に加盟している生産者や販売業者で研修した栽培及び販売のノウハウが生かされているからです。

聡一さんは、今後の展開として「川口市やさいたま市の植木は、日本の3大植木生産地(残り2か所は、福岡久留米、愛知稲沢)として造園業界では認知されていますが、一般の消費者には知られていないのが実態です。現在、川口市役所と造園会でタイアップして、市内の植木生産や造園業を紹介する動画を制作中で、完成後はYouTubeにアップするので、広く認知していただき地域の活性化につなげていきたい。」と語ってくれました。



専務の矢倉聡一さん



苗木を栽培する畑及び展示場

(写真提供:(有)グリーン・シシクラ)

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1 さいたま新都心合同庁舎 2号館

TEL 048-740-5835 FAX 048-601-0510

＜関東農政局HP＞ <http://www.maff.go.jp/kanto/>